

私の体験について

47期 櫻井 一貴

初めまして、47期の櫻井と申します。私は2008年に土木工学科（現：都市環境学科）に入学、大学院を2014年に修了、その後は会社員として、岡山、ベトナム(海外)、福島、関東と色々な土地に移動をしながらたくさんの経験ができました。

まだまだ若輩ですが私の経験について、皆さんに3つ共有できればと思います。

① ちょっと背伸びをしてみること。

私は就職活動の面接の中で、若干のはったりをかましました。就職面談の時に「海外に興味はありますか？英語はできますか？」という質問が来た際に、海外は遊びでいったことのある程度でしたし、言語は苦手な成績があまり良くない方でしたが、国際的に働くことの興味心から、「興味あります。日常会話程度ならできます」と返事をしました。面談時のことを覚えてくれていて、運もすごく味方して、入社2年目に海外のプロジェクトに所属でき、ベトナム(越国)にて4年間働きました。正直、最初の1年間は英語/ベトナム語や仕事において苦い思い出もたくさん経験しましたが、自分のレベルが上がっていくことは日々実感できました。最後の方には、周辺の東南アジア諸国に一人旅するほどたくましくなりました(笑)。下の写真は私の思い出の一部です。

上述のように面談時のはったりが自分を成長するきっかけになり、自分の当時のレベルより一歩上のステップを経験するきっかけとなりました。あの時の面接で正直に話していたらこの経験はできなかったのかなと思うと少し背伸びすることも大切だと思います(もちろんそれに見合う苦労や努力は必要となりますが、、、)。皆さんも自分の可能性にフタをしないで向上心があるのなら多少の背伸びをしてみてください。



② ボート部の仲間たち

私は高校まで硬式野球部に所属し、大学からボート(漕艇)というスポーツに関わりました。私が入部した当時は先輩方全員合わせても3人ほどしかおらず、不安になったのを覚えています。ただ同期には恵まれ私を含め3人ほど入ってくれ、ボートという新しいスポーツ体験にワクワクし、練習後は酒を交えて楽しみました。

その仲間たちとは今でも定期的集まっており、酒を飲みながら、くだらない事や相談事なども付度なく話せる大切な仲間です。私の結婚式にも参列していただき、スピーチもしていただきました。学生生活が終わると、自分の生活の基盤を作るためにも働いて稼ぐ必要が出てきます。その中では、色々な責任もついてきて、非常につらい思いをすることもあるかもしれません。今の皆さんからすると少し古い考え方なのかもしれませんが、今は人生100年時代と言われるほどです。そんな長い人生のなかでサークルや部活の仲間は一生ものの出会いになるのかなと思います。大切にしてください。



③ 大学生生活の4年間

最後に簡単にですが、現役の皆さんへのエールを送りたいです。今だからすごく思いますが、大学生活というのは良い意味で特殊な環境で、成人として大人の仲間入りをするなかで、身分は“学生”という環境になります。さらに自分のしたいことへの時間を作る最後の時間でもあります。皆さんには“好きに使える時間”が与えられています。アルバイト・ボランティア・勉強・資格取得・旅行・仲間とのバカ騒ぎ、なんでも経験できる大切な時間を後悔のないように過ごしていただければ幸いです。

最後に、ボート部に関するすべての皆様のご活躍を心から応援しております。

以上